

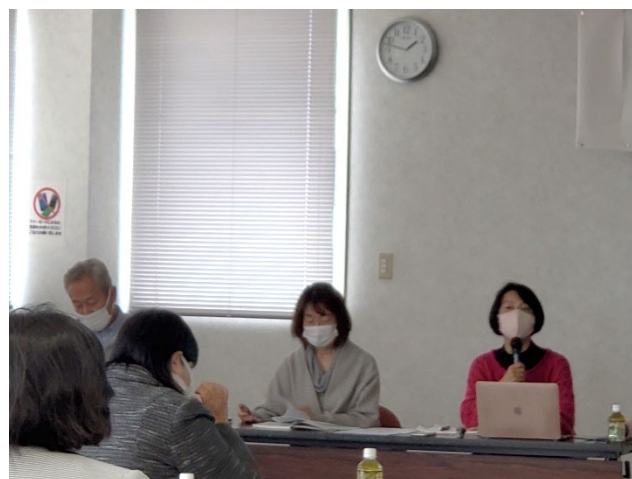
【報告】茨城県 PTA 連絡協議会子育てネットワーク委員会・茨城県教職員組合女性部
『学習・懇談会—共に語ろう—』

◆日時：令和5年2月25日（土）13:30～15:30

◆場所：茨城教育会館 3階 会議室

◆日程：

1 あいさつ



2 学習会

(1) テーマ：「不登校の現状とこれらに向けて」

(2) 講師：不登校・多様な学びネットワーク茨城 代表世話人 石田佳織氏

//

世話人 武田利良氏

//

世話人 中谷稔氏

(3) 主な内容の抜粋

- 「不登校・多様な学びネットワーク茨城」は、121団体（196名）が所属し、子どもたちの豊かな育ちを支えるためのネットワークです。
- 「いばらき不登校・多様な学び育ち応援サイト」に県内情報を集約しています。

(<https://ibaraki-futoukou.net/>)

子どもが学校に行きたくないと言ったら、きっと親も動揺すると思います。まずはサイトをご覧ください。茨城県PTA連絡協議会ホームページの関連リンクからもアクセスすることができます。

- 学校に行きづらくなる理由は、個々によりさまざまです。
- 不登校の児童の心の状態と回復を見ると、初めは何とか学校に行こうとしますが、思っているようにはいかなくなります。その後、低迷期となり、心身の活動が低下してしまい、好きなことに支えられる時期を過ごします。



回復期に入ると、心と体を休めることで、少しずつ元気になります。部活だけが行けるようになったりします。その後、学習に気持ちが向くのは、大分後のことで、心の回復が進んでからになります。部活に來れたから、次は授業に出れるようにしようと、次から次へと提案されると子どもは混乱をしてしまうので、注意が必要です。

大事なものは、部活だけでも來れていることをしっかり認めてあげることです。

自分のペースで自分の興味に応じて、取り組むことです。

徐々に自分が過ごしやすいリズムや暮らし方に気づき、自身を取り戻していきます。

自分の生き方を模索し、どうしていきたいかを考えていくには、時間も大事です。



○ 「私たちにできることは？」

- ・一人一人に応じた柔軟な対応をしていく。一人では抱え込まず、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、他の先生へ相談をする。
- ・PTA(保護者)としては、不登校の子どもをもつ保護者とつながる機会を設ける。孤立させないことが大切です。不登校は誰にでも起こり得るです。子供会などを利用して、ボランティアや行事などを開催し、そこに参加してもらうのも有効です。ただし、本人や保護者の方の意思を大切にすることが必要です。
- ・学校でも環境の改善や居場所づくりをする。一人だけではなく、チームでの関わりが大切です。教育委員会や教育支援センター、フリースクール、親の会などとも連携を図っていく、オンライン授業も受けられるという選択肢もあると助かります。
- ・地域としては、学校以外で遊ぶ場所や時間、仲間づくりの機会をつくる。いろいろな価値観の人と出会う機会などを提供することも大事です。

4 懇談会

グループに分かれて、不登校の身近な事例や対処方法、疑問などの情報交換など活発な意見交換ができました。「いばらき不登校・多様な学び育ち応援サイト」をPTAの中でも知ってもらい、困っている保護者や子どもたちを助けていく一助としていただけるとありがたいのご意見をいただきました。

※ 以上、「学習会・懇談会」の一部をご紹介させていただきました。ご紹介を通して会員の皆様に情報をご提供し、不登校について理解を深める上での一助となれば幸いです。